

町では、4月より町内在住の中学2年生から高校3年生を対象にピロリ菌検査及び除菌治療の助成を行います。

ピロリ菌とは胃がんや胃潰瘍の原因となるもので、みなさんの中でも検査を受け除菌治療をした方もおられるかと思えます。

ピロリ菌の感染時期は幼少期といわれており、ほとんどが家庭内感染です。

大人になってから感染することはほとんどないので、夫婦間で感染することはないといっているでしょう。しかし、お子さんがピロリ菌に感染していたとしたら……。ご家族の中でピロリ菌に感染している方がいる確率は高くなります。

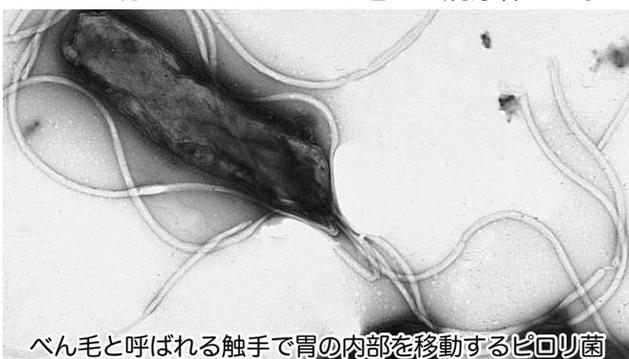
中学2年生からのピロリ菌検査の目的は、お子さんの胃がんや胃潰瘍になるリスクを減らすことですが、もう一つはご家族の胃がんや胃潰瘍になるリスクを減らすことでもあるのです。

そもそもピロリ菌とは？

ピロリ菌は、正式名称「ヘリコバクター・ピロリ」と呼ばれる、胃に生息する細菌です。

胃の内部は胃酸によって強酸性ですが、ピロリ菌はウレアーゼと呼ばれる酵素で胃酸を中和し、胃へ定着（感染）しています。

ピロリ菌は、慢性胃炎、胃潰瘍や十二指腸潰瘍のみならず、胃癌やMALTリンパ腫やびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫などの発生に繋がることが報告されているほか、特発性血小板減少性紫斑病、小児の鉄欠乏性貧血、慢性蕁麻疹などの胃外性疾患の原因となることが明らかとなっており、細菌の中でヒト悪性腫瘍（がん）の原因となり得ることが明らかになっている唯一の病原体です。



べん毛と呼ばれる触手で胃の内部を移動するピロリ菌

ピロリ菌検査を受けてみたくなった方、朗報です！

町で実施している集団検診で検査が出来るのです。「ABC検診」といって、ピロリ菌の有無と胃の粘膜の状態を血液検査で知る方法です。

ただし、これだけでは不十分で同時に胃の検査を受けていただくことがもっとも望ましいのですが、「職場で胃の検診はやっているよ」という方は、この「ABC検診」だけでよいので、是非受けていただきたいと思えます。



①もしピロリ菌が見つかったら・・・？

ピロリ菌感染の自然治癒は難しいため、主に錠剤の服用による除菌治療が7日間程度行われることとなります。

成功率は初回で75%程度、最終的には95%の方が除菌できると言われています。

ただし、治療の途中で服用をやめたりすると、ピロリ菌が薬剤への耐性を持つことがあり、治療が難しくなる場合があります。

②ピロリ菌がなかったから自分は大丈夫と思いませんか？

胃がんの原因の9割はピロリ菌といわれていますが、あと1割はそれ以外に原因があるということです。早期に発見できれば比較的完治する胃がん。『早期発見』が最も大切です。そのためにも年に1度は、胃がん検診を受けていただきたいと思えます。

がんにならないよう生活していてもなってしまうことはあります。

しかし、胃がんで命を落とすことがないよう積極的に検診を受けてください。

上ノ国町から胃がんをなくそう！ではなく、「上ノ国町から胃がんで命を落とす人をなくそう！」ですね。